

2024年度活動報告書

自：2024年4月1日

至：2025年3月31日

I. 事業実施概要

2024年は、正月早々、北陸地方を襲った能登半島地震により、石川県を中心に甚大な災害に見舞われ、コロナ禍後、これからという時の出来事で私たち日本人にとって大変不安な1年の始まりであった。しかしながら、社会活動は、コロナ禍前の状況に戻り、当協会も計画通り、目標達成に向けた対外活動を行うことが出来た。

国際情勢においては、ウクライナ戦争に加え、パレスチナ紛争も長期化し、不安定な社会情勢が続いている。また、世界的な飼料や食品価格の高騰は落ち着きを取り戻しつつあるものの、わが国は円安の進行による物価の高止まりもあり、依然、日本社会全体の経済、消費活動に大きな影響を及ぼしている。

こうした社会情勢の中、酪農乳業界も多くの課題に直面した。2020年から続く建築資材や燃料等の生産資材価格高騰や、輸入飼料価格の高騰・高止まりなどは、酪農経営に依然として影響を与えている。離農が加速し、このまま酪農家が減少すれば、酪農乳業界にとって大きな影響を及ぼすと危惧されるため、外部要因に影響されない足腰の強い酪農への転換を進めていく必要がある。

2022年度から4回にわたり、飲用向け、乳製品向け乳価の値上げが行われ、2025年度にもさらなる値上げが行われる見込みである。持続可能な酪農を実現する観点から、生産者の手取りを増やし、さらには、国産牛乳乳製品の需要拡大や、成長が期待される海外市場への進出を積極的に進めていくことも極めて重要な取り組みと考える。今後も引き続き、「酪農及び肉用牛生産の近代化を図るための基本方針」策定に向けて議論された中長期を見据えた課題に向き合い解決を図っていく必要がある。

また、酪農乳業界にとって最大の懸案事項である脱脂粉乳の過剰在庫については、継続的な行政による支援の下、生産者と乳業者が一丸となって対策を講じたことから、最大10万トンまで積みあがった在庫は、現在適正水準の5万トン台にまで低減している。昨年度立ち上げた、国の令和5年度補正予算事業「国産畜産物利用安定化対策事業」を活用した「ヨーグルト消費拡大対策」の実施もその後押しとなっている。しかしながら、何ら対策を講じなければ在庫が積みあがってしまう状況は依然変わらず、生乳需給と酪農経営改善の足かせとなっている。一方のバター在庫については、外食産業等の需要の回復により在庫水準が低い状況が続

いており、バターと脱脂粉乳の需要の不均衡が課題となっている。

こうした酪農乳業界を取り巻く厳しい環境変化の中、当協会は、年度計画に掲げた重要課題への取り組みの見直しを図り、更に新たな取り組みを加えながら、活動を行ってきた。

生産技術部においては、HACCPが制度化された後も品質事故が起こるなど、HACCP制度化対応への取り組みが急務となっており、会員各社の技術者育成に向けた各種講習会の開催に加え、特にHACCP制度化対応への遅れのほか、工場全体の製造管理体制が十分でない小規模事業者に対する講習会や衛生管理支援事業に本格的に取り組んだ。生乳需給が緩和している中で品質事故が発生すると乳業界全体への信頼を毀損し消費にも影響を及ぼすリスクがあり、特に品質管理基盤の脆弱な小規模乳業者を中心とした品質管理レベルの底上げは今後も継続して取り組むべき課題であると認識している。また、牛乳・乳製品の制度改正については、LL牛乳の大臣承認制度の廃止や牛乳・乳製品の容器包装の用途別規格の廃止等、業界要望を踏まえた活動を行い成果を上げた。

企画・広報部（広報）においては、昨年度実施してした「10代ミルクプロジェクト」は費用対効果等を検討した結果、本年度は取りやめ、代わりにJミルクが主催する「土日ミルクフェス」に参画し、骨量測定を通して、牛乳・乳製品の普及啓発に努めた。その他、牛乳・乳製品の消費拡大に向けた取組み推進にあたっては、Jミルクや中央酪農会議等の関係団体及び乳業各社と活動や機能分担等について連携を図り、より効率的な取り組みを行った。

企画・広報部（企画）においては、乳価引き上げや夏場の猛暑の影響など、生乳需要の不透明感が継続する中、農林水産省、Jミルクと連携して脱脂粉乳の過剰在庫処理対策を推進するとともに、タイムリーな需給状況把握により、生乳需給の安定化に努めた。また、酪農・乳業に係る政策的な課題については、乳業基本問題検討委員会等において業界の意見を集約し、行政との意見交換や畜産部会等を通じて意見表明を行った。また、牛乳乳製品の輸出拡大に向けた体制整備や輸出補助関連事業の取り組みや、直面する「物流の2024年問題」に対し、自主行動計画の遵守状況を調査し、物流の停滞が起こらないようフォローアップした。

環境部においては経団連・カーボンニュートラル行動計画、循環型社会形成自主行動計画や容器包装3Rの目標などの達成に向けて、経団連、資源リサイクル関係団体の活動に参画して業界としての目標達成のために会員に対しての情報の発信・共有化や、会員個社への活動支援を進めてきた。また昨年度から取り組み始めた食品ロス削減への対応は、2023年度に実施した商習慣実態に関するアンケート調査結果を元に、納品期限の緩和、リードタイムの確保を目標に掲げ、7

月 1 日より商習慣見直しを乳協会員個社にて取引先流通業者と商談を開始した。

これら各部の活動に加えて、協会共通の取り組みとして、更なる円滑な業務推進に向けて、部門横断的発想で効率的かつ効果的な業務改革に取り組んだ。

また、社会的に解決すべきテーマとなっているSDG sについては、昨年度に続き、HPへの全国の乳業者の事例紹介を継続し、乳業界へのSDG s活動の浸透、定着に取り組んだ。

Ⅱ. 各部の取り組み結果

1. 生産技術部の取り組み結果

2021 年 6 月より H A C C P が制度化されたが、その後も品質事故が相次ぐなど、H A C C P 制度化対応への取り組みが急務となっている。また、小規模事業者の品質事故においては、H A C C P 制度化対応への遅れのほか、工場全体の製造管理体制が十分でない現状が明らかになった。

この状況を踏まえ、地区協会と連携して開催した 17 地区での「牛乳衛生講習会」、小規模事業所の製造管理者を対象とした「製造管理者講習会」(2022 年度より開始)、個別に事業所を訪問して H A C C P 手引書に基づく一般衛生管理計画や H A C C P プランの作成を指導・支援する「小規模事業者衛生管理支援事業」(2023 年度より開始)等により、小規模事業者の H A C C P に沿った衛生管理体制強化を図った。

一方、主に大手中堅乳業会社の H A C C P 運用を推進する衛生管理者を養成する「H A C C P 実務者講習会」は 2020 年に改訂された C O D E X 食品衛生の一般原則に基づき、演習を主体とした実務的な内容として東京会場、大阪会場で開催した。

なお、牛乳・乳製品の衛生・品質上の課題対応のために生産技術委員会を、適正な表示等の実現に向けて乳製品表示検討委員会をそれぞれ開催して検討を進め、行政への要請並びに会員への適切な情報の提供及び周知を行った。

1) 乳業施設の衛生・品質管理体制強化のための取り組み

以下の講習会、事業を実施した。

(1) H A C C P 実務者講習会

事前配信のオンデマンド講義(日本食品衛生協会 荒木恵美子講師 6 時間)と 2 日間の集合演習からなる H A C C P 実務者研修を東京会場(9 月 2~3 日 受講者 11 名)と大阪会場(11 月 28~29 日 受講者 13 名)にて開催。

集合演習では受講生を 4~5 名のグループに分け、「紙容器入り牛乳」を題材にグループ単位で討議しながら、H A C C P システムを作り上げた。

(2) 牛乳衛生講習会

牛乳等の衛生管理水準の向上、特に中小規模の乳業工場の底上げを図る目的で各都道府県協会と当協会の共催で開催し、7 月~11 月に 17 地区(近隣都道府県との合同開催含む)で参加者は合計 467 名であった。

今年度より、前半の衛生パート終了後に理解度テストを実施した(後半の乳協パート終了後に回答と解説)。

(3) 乳製品表示講習会

乳製品表示実務者の育成を目的として、東京会場（1月17日 受講者 24名）で開催した。2025年1月更新版「乳製品・乳主原の表示ガイドライン」の解説を主体とした前半の講義と後半のグループ演習で乳製品・乳主原の表示に関する知識の習得と実践力の向上を図った。

(4) 製造管理者講習会

小規模事業所の製造管理者の育成を目的として東京会場（12月13日）と博多会場（2月7日）で計画し、東京会場は応募者が10名の開催最低人数に満たず開催見送りとなった。博多会場は対象者の事業所規模の制約をはずして募集して開催した（受講者16名 内小規模事業者2名）。

(5) 小規模事業者衛生管理支援事業

当協会からのHACCP指導を希望する小規模事業者を地区協会から推薦頂き、衛生管理計画、HACCPプラン等の作成を現地で指導した。今年度は、対象事業所を昨年度の5事業所から7事業所に拡充し、7～9月に初回訪問指導、1～3月にフォローアップ指導を実施した。また、本事業で得られた知見については、牛乳衛生講習会等で全国の会員に情報提供した。

さらに、本事業を通じ、小規模事業所の方々から乳業施設の機械設備のメンテナンス方法に関する情報提供を求める声が多かったことを受け、機器のメンテナンス不良による品質事故事例を基に、事故を防ぐために注意すべき点等について解説した以下2本のショート動画（1～2分強）を一般社団法人日本乳容器・機器協会の全面的な協力を得て作成し、2月にHP（メンバーサイト）に公開した。

- ・牛乳パック ボトムシール不良 未然防止のメンテナンス例
- ・牛乳送液ポンプ削れによる異物混入 未然防止のメンテナンス例

2) 牛乳・乳製品の制度改正に係る取り組み

(1) 食品衛生法、乳等命令、食品表示基準等

牛乳・乳製品に係る法令改正等に対応し、行政当局への要望等の的確な反映と法令改正等情報の会員への周知として、器具及び容器包装の規格基準の一部改正案、LL牛乳等の規格基準化と大臣承認制度廃止について、各地区のブロック会議、牛乳衛生講習会で会員への周知徹底を行った。

- ① LL牛乳等の規格基準化・大臣承認制度廃止と自主ガイドラインの策定
規制緩和の進んだLL牛乳等について、安全性に対する消費者の信頼を維持するために最低限必要と考える以下の自主ガイドライン案を検討し、

生産技術委員会で審議の後、関係する事業者への説明会を実施した（14事業者 60 名が参加）。

- ・ハード面「製造機器に関する自主基準(案)」(日本乳容器・機器協会作成)
- ・ソフト面「出荷前自主検査ガイドライン(案)」(日本乳業協会作成)

なお、上記自主ガイドラインについては、厚生労働省等に報告し、全国の自治体への周知を依頼した。

②調製粉乳等の大臣承認手続の見直し（2月28日に消費者庁通知発出）

消費者庁食品衛生基準審査課と調製粉乳技術小委員会にて、通知発出後の運用に関する打合せを実施し、消費者庁と合意した具体的な申請書記載例を作成した。

(2) 乳児用調製乳の国際規格適合化促進事業

調製粉乳等の乳児用調製乳について、一部の栄養素がわが国で食品添加物として指定されていないため、CODEXの国際規格を安定的継続的に満たすことが困難な状況にある。

このため、5つの栄養素添加物について、当協会が申請者となって添加物申請を行うこととし、まずは、ビタミンK1から、調製粉乳技術小委員会において助言者の協力を得ながら必要な作業を継続実施した。

(3) その他

生乳検査精度管理認証制度や官能評価員養成研修への協力対応のため、日本乳業技術協会の主催する検討会に出席した。

3) 牛乳等衛生功労者の表彰

牛乳等の品質・衛生管理に長年功績のある功労者を全国公平にその功績をたたえる観点から、これまで会長表彰の推薦実績が乏しい地域を中心に引き続き積極的に働きかけを行った。選考会（8月9日）にて選考した会長表彰贈呈者3名、会長感謝状贈呈者10名、永年勤続表彰贈呈者2名の15名の表彰を11月18日に実施した。

2. 企画・広報部（企画）の取り組み内容と結果

乳価引き上げや夏場の猛暑の影響など、生乳需給の不透明感が継続する中、農林水産省、Ｊミルクと連携して脱脂粉乳の過剰在庫処理対策を推進するとともに、タイムリーな需給状況把握により、生乳需給の安定化に努めた。また、酪農・乳業に係る政策的な課題については、乳業基本問題検討委員会等において業界意見を集約し、行政との意見交換や畜産部会等を通じて意見表明を行った。

国際関係では、貿易協定の実施状況を注視し、畜産部会においてチーズの関税に引き下げによる影響への対応に関して意見表明を行った。また、牛乳乳製品輸出協議会として牛乳乳製品の輸出拡大に向けた体制整備や輸出補助関連事業を活用した活動に取り組んだ。

また、「物流の 2024 年問題」に直面することから乳業界における自主行動計画の遵守状況を調査し、物流の停滞が起こらないようフォローアップした。

1) 需給均衡の推進

(1) 牛乳・乳製品の需給予測

牛乳乳製品需給検討委員会を開催し、需要量・生産量及びバター・脱脂粉乳の在庫水準等について予測を行い、ＨＰを通じて会員に情報を提供した。

また、5 月 16 日、7 月 17 日、9 月 19 日、12 月 19 日、1 月 17 日にＪミルクの需給委員会に参画し、需給情報を共有した。

(2) 乳製品需給の過不足対応

Ｊミルクと連携を取りながら、会員に「酪農乳業乳製品在庫調整特別対策事業」参画への理解と協力を求めた。また、需給検討委員会での予測をもとに、乳製品の需給不均衡に対応するよう、国に対して情勢の変化に応じたバターのカレントアクセス輸入の柔軟かつ迅速な対応などを要請した。

(3) 牛乳・乳製品需給検討委員会の開催

牛乳乳製品需給検討委員会を 5 月 10 日、9 月 13 日、12 月 12 日、2 月 18 日に開催し、情報の収集と共有化を図った。

2) 「畜産経営安定法」、「酪肉近代化基本方針」等への対応

(1) 「畜産経営安定法」等への適切な対応

安定的な生乳取引の継続に向け、「国産乳製品等需要拡大事業」を活用した脱脂粉乳の需要拡大対策について、乳業基本問題検討委員会を 5 月 14 日、7 月 18 日、9 月 26 日、1 月 27 日、2 月 28 日に開催して議論した。

また、乳業基本問題検討委員会・委員と農水省牛乳乳製品課との意見交換会を開催し、改正食料・農業・農村基本法及び食料供給困難事態対策法について情報共有を行うとともに、酪農政策の現状と課題について議論した。

(2) 「酪肉近代化基本方針」等の推進に係る対応

「酪肉近代化基本方針」の見直しや、「適正な価格形成」に関し、乳業基本問題検討委員会等において業界意見を集約し、行政との意見交換や食料・農業・農村政策審議会畜産部会等を通じて意見表明を行った。

また、Jミルクが実施する「酪農乳業産業基盤強化特別対策事業」に参画し、生乳生産基盤強化に向けた取り組みを支援した。

3) 国による乳業関連事業への対応

(1) 学校給食用牛乳供給事業制度の堅持及び円滑な推進

学乳問題特別委員会に参画し、供給事業に係る政府予算の策定に当たり、学校給食用牛乳供給制度の堅持を基本とする農林水産大臣あて要請文書を作成した。なお、要請は6月13日に、Jミルク大貫会長、隈部副会長らが農林水産省を訪れ実施されている。

(2) 乳業再編事業の支援

農林水産省が実施する「乳業等の再編・合理化に向けた取り組みへの支援（ハード事業）」について、事業を活用する乳業者に対して必要なサポートを行うこととしているが、2024年度における事業利用者はなかった。

(3) その他の乳業関連補助事業の支援

平成29年度外食産業等と連携した畜産物の需要拡大対策事業の実施状況と、最終年度としての評価を畜産局長へ報告した。

4) 国際化の進展への対応

(1) 国際貿易交渉等への対応として、業界意見の集約と行政への提言・意見具申

食料・農業・農村政策審議会畜産部会等を通じて、チーズの関税引き下げ等による国際貿易の変化への対応の必要性について、国に対し意見具申した。

(2) 牛乳乳製品の輸出拡大に向けた対応（令和5年度補正予算）

（一社）日本畜産物輸出促進協会が日本の畜産物の輸出拡大を図ることを目的に出展する「Food Expo PRO 2024」（香港）（8/15～8/17）に、牛乳

乳製品のアピール部隊として参画した。また、令和6年度品目団体輸出力強化緊急支援事業の牛乳乳製品輸出促進関連業務として、シンガポール・台湾・香港・マレーシア・ベトナムの市場調査・分析に係る業務を実施。さらに、日本産牛乳乳製品のプロモーション業務として、東京発台北行き航空機での日本産チーズの提供やシンガポール・台湾現地でのPR活動等を実施した。

同事業を活用し、牛乳乳製品輸出ロゴマークの商標登録出願申請を継続しており、今年度は中国における5類・30類の登録が完了した。



(3) 物流の2024年問題に対する対応

乳業界の現状を把握するため、農水省牛乳乳製品課から乳業者に対するアンケート調査に協力した。

3. 企画・広報部（広報）の取り組み内容と結果

牛乳・乳製品の消費拡大に向けた取組みとして、牛乳・乳製品に関する知識や新たな知見の普及・啓発活動を推進し、「乳」への理解促進と食生活における習慣化を推進した。

推進にあたっては、Jミルクや中央酪農会議等の関係団体及び乳業各社と、活動や機能分担等について連携を図り、より効率的な取組みを行った。また、情報発信については、オピニオンリーダーや専門紙誌記者に対する活動を一部見直しながら効果的な取組みを目指し取り組んだ。

1) 牛乳・乳製品の食生活における習慣化の推進

(1) 食育事業・相談対応

① 小中高生対象の食育授業「ミルク教室」の実施

小中高生に対して牛乳講話や混ぜのみ体験を行い、牛乳の価値を伝えた。

実施 67 回、申し込み 84 件（前年同期実施 83 回、申し込み 100 件）

動画教材：申し込み 130 件（前年同期 175 件）

また、訪問できない地域の学校の栄養教諭等が食育授業で活用できる動画教材「わくわくどきどきミルク教室」の活用促進を図った。

② 栄養学系学生対象の「ミルクセミナー（旧 3-A-Day セミナー）」の実施

将来、小中学校の食育や給食献立に関わる栄養学系学生を中心とした学生に対して外部講師による牛乳・乳製品の栄養学講義を実施する牛乳・乳製品の栄養的重要性と、小中高生の食生活における習慣化の重要性を伝えるセミナーを実施した。

- ・女子栄養大学栄養学部 1 年生 230 名：5 月 30 日
- ・女子栄養大学栄養学部 4 年生 60 名：11 月 29 日
- ・鎌倉女子大学管理栄養学科 3 年生 152 名、
家政保健学科 3 年生 99 名：9 月 20 日

③ 学校・教育関係者、保護者対象の食育勉強会の実施

学校・教育関係者および保護者に対して、牛乳講話の実施や混ぜ飲み体験、料理動画視聴機会の提供を行った。

実施 20 回、申し込み 24 件（前年同期実施 7 回、申し込み 22 件）

④ 行政や業界関係団体が主催する食育イベント等への参画

「第 19 回食育推進全国大会 in 大阪」に出展（主催者発表来場者約 30,000 人）環境部・容環協と共同出展し、牛乳乳製品の栄養的価値や容器のリサイクルについての理解向上を図った。



「第 1 回全国学校給食・栄養教諭等研究協議大会」に J ミルクと共同出展し、当協会の食育動画について紹介した。

⑤ 牛乳・乳製品に関する相談や問い合わせへの対応

相談 124 件（前年同期 134 件）

また、以下のメディア取材対応を行った。

- ・テレビ朝日ザワつく金曜日（牛の飼養管理について）
- ・テレビ朝日かりそめ天国（脱脂粉乳について）
- ・熊本テレビ（ビンのシュリンクについて）

(2) 消費者向けイベント・施策の企画・推進・支援

① 「10 代ミルクプロジェクト」の推進

10 代ミルクプロジェクトは費用対効果等を検討した結果、本年度は実施しないこととし、その代わりに J ミルクが主催する「土日ミルクフェス」に女子栄養大学上西教授と同大学の学生の協力を得て、骨量測定イベントを実施した。

② 会員が実施する普及・啓発活動への支援

会員が行う、消費者の牛乳・乳製品や業界課題に関する理解醸成と消費拡大につなげるための取り組みについては、都道府県協会から 8 件の申し込み（骨密度測定等）があり、全て採択して費用助成を行った。

③ クラシルを活用した牛乳やスキムミルクに関する知識・情報の発信

A l i c 事業を活用し、クラシルによるショートコンテストやレシピ開発を企画してスキムミルクの活用促進を図った。

④ S N S を活用した牛乳・乳製品に関する知識・情報の発信

消費者向けに X（エックス／旧 Twitter）にて、9 月下旬に期間限定アカウント「牛乳先生と仲間たち」を立ち上げ、牛乳乳製品に関する様々な投稿を開始した。

(3) 「ミルクの未来を考える会」の開催

- ・情報発信力のあるメンバー（ジャーナリストや消費者等を代表するオピニオンリーダー、インフルエンサー等）5 名を新たに加え、「ミルクの未来を考える会」としてスタートした。
- ・第 1 回目 一般社団法人ヨグネット代表理事 向井智香氏による「ヨーグルトにおける乳・クラフトマンシップの価値訴求の可能性」
- 第 2 回目 チーズプロフェッショナル 大和田百合香氏による「日本のナチュラルチーズが「culture」になる日を夢みて」

第3回目 和洋女子大学家政学部長 熊谷優子氏による「乳・乳製品の魅力を知る～食品安全の視点から～」の3回の講演と、乳業メーカーを交えた意見交換を行い、講演と意見交換の実施報告はHPへ掲載。委員や乳業メーカーにもSNS投稿、HP掲載、勉強会等での情報拡散に協力を頂いた。

(4)「酪農乳業ペンクラブ」の運営

- ・4月12日 春季見学会 雪印メグミルク(株)イノベーションセンター訪問
- ・7月4日～5日総会・研修会 (株)美瑛ファーム・(株)ふらの農産公社を訪問
- ・10月3日 秋季懇親会
- ・1月29日 冬季研修会 「最近の酪農乳業事情について」
- ・リリース12回(講習会のご案内・イベントや情報発信)
- ・乳協活動報道6回(総会・牛乳等衛生功労者表彰式・賀詞交歓会・ミルクの未来を考える会等)

2) 牛乳・乳製品の普及・啓発活動の充実・強化

(1) 普及・啓発ツールの製作と会員への提供

① 普及・啓発活動に活用できる資料(パンフレット・リーフレット類)の製作と提供

- ・4月に全国の会員に「普及・啓発用パンフレットの無償提供」をご案内したところ、初めて申し込む中小乳業メーカーを含め、過去最も多い申し込みがあった。
- ・「3-A-Day」に代わる普及啓発のメインキャッチフレーズとして「やっぱりミルク」を打ち出し、会員に積極的な活用を促した。



牛乳・乳製品がもつ栄養、
おいしさ、たのしさの魅力に
気づいてもらい、
どのようなシーンにも
とり入れてほしいという
メッセージです。

- ・工場見学会や食育セミナー等で活用していただくパンフレットに「やっぱりミルク」を活用し、さらにわかりやすく手に取ってもらいやすいものにリニューアルし、会員に積極的な活用を促した結果、牛乳8,500部、ヨーグルト6,300部、チーズ6,300部の申し込みを頂いた。



② 工場見学や食育活動等で消費者に配布するノベルティグッズの製作と普及・啓蒙用パンフレットを作成

- ・工場見学会や食育セミナー、イベント等で消費者インセンティブとして活用いただけるノベルティグッズとして、「やっぱりミルク」をデザインしたオリジナル油性ペンを製作し、申し込みのあった会員に無償提供した。製作数量 3 万本を超える申し込みがあったため、数量調整のうえ提供した。



- ・パンフレットの使用状況としては、「牛乳のおはなし」20,500 部「牛乳の味って変わることがあるの？」10,000 部「そうなんだ正しい牛乳・乳製品の取り扱い」8,700 部のお申し込みを頂いた。

(2) 協会の食育活動に関する案内強化

① 行政・関係機関等の訪問による案内

千葉県、東京都、神奈川県、大阪府、大阪市、兵庫県、神戸市、滋賀県を各都府県協会と共に訪問し、出張授業や食育動画の紹介を行った。また、埼玉県、和歌山県の県協会に対して上記紹介を行い、行政への紹介を依頼した。

② 学校へのメールや郵送での直接案内

- ・10 代向け食育ドラマ動画「#きみは、きみの食べたものでできている」の視聴申し込みを頂いた約 1,000 校(全国の高校約 5,000 校に郵送案内)のうち、送付許可を頂いた先生に対して、四半期に 1 回程度、関連する情報の提供（ミルクレター）を行った。本年度は 5 月（食育動画教材のご紹介）、8 月（食品工場での衛生管理）に配信した。

③ SNSを活用した情報発信

- ・ X（エックス／旧 Twitter）を用いて、主に乳協キャラクターを使用した発信を週 1 回行った。
フォロワー数：773（前年比 18%増）
期間中インプレッション数：405,000
期間中エンゲージメント率：2.1%
- ・ インスタグラム開設（2024.10～）
牛乳・乳製品を使ったレシピの発信を行う
現在 16 投稿、フォロワー20

(3) 協会活動に関するプレスリリースの充実

① 酪農乳業ペンクラブ宛プレスリリース

- ・ 5 月 17 日「第 13 回定時社員総会」開催と「2024 年度事業計画」について
- ・ 5 月 22 日全国の会員乳業者と共に「全国一斉地域清掃活動」を実施
- ・ 5 月 29 日牛乳・乳製品の普及・啓発用新キャッチフレーズ『やっぱりミルク』活用開始のお知らせ
- ・ 6 月 28 日チルド流通食品の将来にわたる産業・サプライチェーン維持に向けた相談開始について
- ・ 7 月 10 日「H A C C P 実務者講習会（東京会場）」の募集を開始
- ・ 8 月 7 日「全国一斉地域清掃活動にチャレンジ！2024」を実施
- ・ 9 月 5 日「2024 年度牛乳等衛生功労者」受賞者が決定
- ・ 9 月 18 日「H A C C P 実務者講習会（大阪会場）」の募集を開始
- ・ 10 月 9 日「製造管理者講習会（東京会場）」の募集を開始
- ・ 10 月 23 日「乳製品・乳主原 表示講習会（東京会場）」の募集を開始
- ・ 2 月 10 日全国牛乳容器環境協議会 2024 年度(第 37 回)飲料用紙パックリサイクル意見交換会開催の件
- ・ 3 月 26 日 2024 年度チルド流通製品の商習慣実態に関するアンケート調査結果公表について

② 一般メディア向けリリース

予算上の問題により実施せず。

(4) 会員各社との連携強化

① 広報委員会の運営を通じた、業界課題の解決に向けた広報活動の協議

- ・ 3 月 7 日乳業 7 社参加にて「2024 年度日本乳業協会活動報告」「令和 6 年度国産畜産物利用安定化対策事業の取組について」「2025 年度日本乳業協会活動計画」等について活発な意見交換を行った。

② 東京連絡会・関西連絡会改め「消費者対応等連絡会」の開催

- ・東京会場は、乳業会館 3 階会議室、関西会場は協会関西事務所と変更は行わず、東西交代でメイン会場を決め、サブ会場とオンラインで繋ぐ形式で毎月実施、全体や相談室活動内容について会員に対して報告するとともに、会員間のコミュニケーションを深めるべく情報交換を行った。

(5) 国が実施する消費拡大事業への対応

「令和 6 年度国産畜産物利用安定化対策事業」のうち「国産乳製品等需要拡大事業」の交付申請と事業追加による変更申請を行った。10 団体（当協会含む）から 1,344 百万円の申請があった。また、9 月に臨時理事会を開催し、同事業予算を活用して「ヨーグルト消費拡大対策事業」を実施することが承認され、事業協力者の公募広告・決定を行った。

① 「ヨーグルト消費拡大対策事業」の推進

- ・業界課題である「脱脂粉乳」の在庫低減策の一つとして、脱脂粉乳の最大の需要先である「ヨーグルト」の消費拡大を目指すプロジェクトを展開。
- ・「私らしくヨーグルト新発見」というキャッチコピーのもと、若年層・子育て世代・中高年とそれぞれの生活の中で、健康を意識するきっかけをつくり、ヨーグルトを取り入れた健康的な生活習慣づくりを提唱。
- ・1/15 の発表会を皮切りに、TV CMやWeb CMなど多面的に情報発信を行い、「ヨーグルトの健康価値」を自分ゴト化・購買機会創出に取り組んだ。
- ・今後も、ヨーグルトの「価値」の更なる啓発をはじめ、ユーザーの行動変容につながる施策強化とともに、関連団体・会員企業各社との連携を強め、生産者も含めた業界全体の取り組みへ進化させる。

【主な施策】

- ・メディア向け発表会（プロジェクト開始をPR）
- ・世代別メッセージCMの投入（3 パターン・TV スポット約 3,000GRP）
- ・若年層向け Tiktok 動画CMの投入
- ・ヨーグルト特集番組の制作（料理番組・深夜バラエティー番組）
- ・店頭販促物の作成 など

【メディア露出効果】

- ・来場メディア：約 80 社 100 名超。（平均的なイベントの約 2 倍）
- ・メディア露出：TV 19 件、新聞 40 件、Web 記事 700 件（2 月時点）
⇒広告換算効果：約 3 億円超（推定）

- ・CM動画：乳協相談室Xアカウント（3 素材計）で約 15 万回再生
Tikitok 動画 約 23 万回再生



4. 環境部の取り組み内容と結果

経団連・カーボンニュートラル行動計画については、2030 年度目標を 7 年前倒しで達成した。循環型社会自主行動計画については、3 項目の目標を全て達成している。

食品ロス削減への対応については、2023 年度に実施した商習慣実態に関するアンケート調査結果を元に、納品期限の緩和、リードタイムの確保を目標に掲げ 7 月 1 日より商習慣見直しを乳協会員各社にて取引先流通業者と商談を開始した。その進捗・成果を確認すべく「チルド流通製品の商習慣実態に関するアンケート調査」を実施し、3 月 26 日にHP（一般サイト）にて公開した。

飲料用紙容器のリデュースについては、2025 年度目標を前倒しで達成した。飲料用紙パックのリサイクルについては、容環協の「プラン 2025」に沿った基本的活動を積極的に継続したことにより、7 年ぶりに上昇に転じた。

環境関連新法に関しては、関係団体等とも連携し最新の動向の把握、特に容器包装リサイクル法改正の動きについて、関係団体等とも連携し、最新の動向の把握に努めた。

1) 環境関連の自主的取り組みの推進

(1) カーボンニュートラル実現に向けた取り組み

経団連が主導するカーボンニュートラル行動計画への参画を継続する。

現在の目標は、下表の通りである。

項目	2021～2030 年度目標
フェーズⅡ(2021～2030 年度)目標	CO ₂ 排出量を売上高原単位として2013年度比で38%減にする。 (2023 年度実績：2013 年度比 38.5%減)

活動状況を4月からHP（一般サイト）に掲載し、ステークホルダーへの周知を図っている。2024年度のカバー率は会員企業12社に参画いただき、引き続き67%である。2023年度実績は、売上高を分母とした二酸化炭素排出量原単位として40.25万t-CO₂/兆円となり、基準年度の65.47万t-CO₂/兆円から38.5%減（2022年度対比では、10%減）となった。2030年度目標の「2013年度比で38%減にする」を前倒しで達成することができた。結果は2025年4月に経団連HPに掲載される予定である。

(2) 循環型社会形成に向けた取り組み

経団連が主導する循環型社会形成自主行動計画への参画を継続する。

現在の目標は、下表の通りである。

項目	2021～2025 年度目標
最終処分量削減目標	2025 年度までに 2000 年度比 97%以上削減を維持する (売上高原単位比として) (2023 年度実績：2000 年度比 99.1%削減)
業種別独自目標	2025 年度まで再資源化率 97%以上を維持する (2023 年度実績：99.1%)
業種別プラスチック関連目標	[数値①]製造工程から排出される廃プラスチックについて、再資源化率 95%以上を維持する (2023 年度実績：97.8%) [定性①]容器包装プラスチックの使用量を可能な限り抑制するよう商品設計を行う [定性②]容器包装などのプラスチック原材料として、環境に配慮した素材の使用を推進する [定性③]ストローとして使用する石油由来樹脂の使用量を可能な限り削減する (2023 年度実績：264.34t 削減)
参考：経団連目標	・最終処分量削減目標「2025 年度に 2000 年度実績比 75%程度削減を維持する」 ・上記の他に業種別に独自目標とプラスチック関連目標を設定する

引き続き活動状況をHPに掲載し、ステークホルダーへの周知を図った。カーボンニュートラル行動計画と同様に、カバー率は67%である。結果は12月に経団連に提出し、3月18日に経団連HPに掲載された。

(3) 食品ロス削減に向けた取り組み

2023年度にチルド流通の「種類別 牛乳」（学乳を除く）に絞ったアンケート式実態調査した結果、乳協として「納品期限の緩和」と「リードタイムの確保」の2点を主目標と定め、5月29日にチルド流通製品の商習慣見直し交渉を行う際の統一資料及びその解説動画をHPに公開し、6月28日に酪農乳業ペンクラブにリリースを行った上で、7月1日より協会会員が一斉に流通業者に対して商習慣見直しのお願いを開始した。8月22日、11月5日、3月6日に主要会員（営業販売部門）による交渉状況の情報共有化と意見交換を行った。1月23日には流通経済研究所主催の食品ロス削減のための商慣習見直しWT日配品検討会にて乳協の商習慣見直し活動を発表した。

11月～1月に「チルド流通製品の商習慣見直しに関するアンケート調査」を実施し、その内容を事前に消費者庁、農林水産省、流通業界6団体に報告した上で、3月26日にHP（一般サイト）にて公開し、酪農乳業ペンクラブにプレスリリースを行った。

(4) 環境問題相談窓口

HP（メンバーサイト）に環境問題全般の相談窓口を設置し、会員が随時相談できる体制を継続している。

2) 容器包装3Rの促進

(1) 飲料用紙容器のリデュース推進

2023年度に引き続き2024年度の調査は、従来の「500ml 牛乳用紙パック」に加え、「400-500ml キャップ付き容器」も調査対象とした。公式には「500ml 牛乳用紙パック」のデータのみを公開するが、「400-500ml キャップ付き容器」も加えた原紙坪量を評価した結果3.6%となり、「容器包装3R推進のための自主行動計画2025のリデュース目標3.0%以上」を2年前倒しで達成した。調査結果は11月1日開催のWGにて結果を関係者（紙パックサプライヤー、環境委員企業）で確認後、紙パックリサイクル調査結果と併せて3R推進団体連合会を通じ、11～12月に三省（経済産業、環境、農林水産）、経団連に報告した上で、記者会見を開催し公開した。

(2) 飲料用紙容器リサイクル活動の支援

引き続き、容環協の事業計画「プラン 2025」に沿った活動を支援する。回収率については 2024 年度も引き続き「飲料用紙容器（紙パック）リサイクルの現状と動向に関する基本調査」を実施した。

調査結果は 11 月に容環協総務・支部組織委員会にて確認後、紙パックリデュース調査の結果とともに、3 R 推進団体連合会を通じ、11～12 月に三省及び経団連に報告した上で、記者会見を開催し公開した。

2 月 14 日に「紙パックリサイクル促進 地域会議 in 関西」を、容環協主催（関西ミルクロードの会、NP0 法人集めて使うリサイクル協会と共催）で開催、また 2 月 18 日には「第 37 回 飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会」を開催した。両会議にて紙パックリサイクルに関する直近の話題（アルミ付き紙パック容器回収等）について活発な意見交換が行われた。

SRA-J（日本サステイナブルレストラン協会）と連携し、業務用飲食店における紙パック回収力向上の実証実験を芦屋、厚木、名古屋等 9 地域で実施中である。

紙パックの雑がみへの混入量の把握を目的に、紙推進協主催の組成調査（7 月 12 日旭川市、3 月 14 日名古屋市）に参加した。

5 月 29 日の飲紙協第 34 回理事会において提案された紙パック識別表示マークガイドラインの見直しについて、飲紙協加盟 6 団体より検討委員を選出し WG を発足させ（容環協からは容器包装メーカー 3 社を選出）、9 月 24 日、12 月 18 日、2 月 25 日の 3 回検討会を開催し、改定案を作成した。この案を 2025 年 5 月 29 日開催予定の飲紙協/総会・理事会にて審議し、承認されればガイドライン改定作業に移行する予定である。

その他、出前授業、リサイクル講習会、意見交換会を適宜開催し、紙パックリサイクルの啓発・普及に努めている。下期にはエコプロ 2024（12/4～6）への出展や「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」開催、ステークホルダー意見交換会等を実施した。

(3) その他の容器包装・廃棄物の 3 R 推進

プラ推進協からの依頼により、2023 年度の瓶牛乳プラキャップの自主回収量、及びプラスチック容器包装のリデュース状況を取り纏めた。瓶牛乳プラキャップは薄肉・軽量化などの取組により、リデュース量は増加したものの、瓶商品の大幅減少により自主回収量は 1,442 t と前年比 376t 減少した。これはここ数年来瓶牛乳から他の容器への変更が進んでいることが影響していると考えられる。

プラ推進協及び紙推進協より「環境配慮事例・3 R 配慮事例」の募集があ

り、プラ推進協に2会員2事例を、紙推進協に2会員3事例を提出した。

3) 環境法令順守への取り組み

(1) 環境法令順守に関わる情報収集と発信

「環境関連法令マネジメントチェックシート」「環境マネジメントチェックシート及び法令改正の要点と解説」を定期的に改訂しており、今年度も11月に更新する予定である。

9月27日に環境セミナー（「再資源化事業等高度化法によって変わる産廃業界事業者と処理業者の新たな連携について」）を開催、25名が参加、11月14日～15日にプラスチックマテリアルリサイクルプラント見学会を開催、9名が参加し、いずれも活発な質疑応答が行われた。

4) 環境法令等改正に係る取り組み

(1) 環境法令等改正に関わる情報収集と発信

産環協：一般社団法人 産業環境管理協会より環境法関連法改正に関わる情報を収集、取り纏め、HP（メンバーサイト）に公開している（2ヵ月毎に更新）。容器包装リサイクル法の改正については、容リ協、プラ推進協、紙推進協、食産センター等の動向を注視し、情報収集を継続した。

5. 事業共通の取り組み

当協会の更なる円滑な業務推進に向けて、部門横断的発想で効率的かつ効果的な業務改革に取り組んだ。

デジタルツールを活用した会議体やセミナー等の活性化は、コロナ収束後、リアル開催を求める声も大きくなり、多様な開催方法が求められるようになった。

SDGs活動では昨年度に続き、HPへの全国の乳業者の事例紹介を継続し、乳業界へのSDGs活動の浸透、定着に取り組んだ。

また、酪農乳業界を取り巻く状況変化を見据えながら、牛乳・乳製品の理解醸成と消費拡大を主眼としたキャンペーン活動を実施した。

1) デジタル化の推進

(1) 各種会議、セミナー、講習会のWeb活用推進

7月開催の全国ブロック会議（四国を除く）において、ハイブリッド形式とし、参加しやすい環境づくりができた。しかし、コロナ明けの前回と違い、オンラインでの参加よりもリアル参加の数が圧倒的に多く、リアルでの開催を求める会員が増えてきていると思われる。今後は原則リアル開

催に軸を置き、会員の要望に応じて、ハイブリッド開催を行っていく。その他会議、理事会、セミナー等に関しても、必要に応じてハイブリッド形式を併用していく。

(2) 外部コンテンツの活用

これまではHPやSNSを中心とした情報発信を主体としていた。2023年度に消費拡大活動等の企画の中で、新設サイトの立上げや他のサイトと連動した情報発信を検討、実施したところ、情報発信効果が顕著であったが、今年度は、新たな企画がなかったため、未実施に終わった。

(3) ペーパーレス化に向けた取り組みによる業務改善

2023年度の電子帳簿保存法の改正以降、請求書発行ソフトの導入により、業務の軽減は着実に進んでいる。もう一つの目標であったタブレットの導入によるペーパーレス化については、費用削減を優先したため、導入に至らず、実現できなかった。

2) 情報発信力強化、会員とのコミュニケーション向上

(1) HPからの情報提供・発信力の改善強化

各種講習会、セミナーの情報発信、環境に関する情報、SDGsの各社取り組み動画掲載など、HPを活用した発信を積極的に取組んだ。しかしながら、当協会から正会員・賛助会員、都道府県協会に向けた週2回の定期発信も、十分であったとはいえ、「食品ロス削減に向けた取り組み」に関する会員へのアンケート結果では、必ずしも視られているとは言い難い結果であった。

(2) 都道府県協会との関係強化

昨年度からブロック会議など直接コミュニケーションが取れる機会が増したためWebを使った会員とのミーティングの実施はなかった。

しかしながら、緊急時の備えとして、いつでもWeb会議ができる体制は整えることは出来た。

(3) 会員アンケートの実施

例年同様、各会員から当協会への意見・要望をアンケート調査にて集め、今回、正会員から13件、賛助会員から20件の意見・要望を頂いた。当協会に対する意見、要望については、各部からの回答を取り纏め、1月下旬に一括回答を会員にメールで送った。また、需給計画についてのご意見は、次年度の事業計画に盛り込んでいくこととした。

3) S D G s に関連する取り組みの推進

(1) 会員による牛乳・乳製品のフードバンク等への無償提供など、情報提供等の支援

会員企業に対して、活動に資する情報提供（全国フードバンク推進協議会や行政の商品寄贈に関する情報）を行い、社会福祉活動への理解醸成を図っており、会員からの問い合わせに適宜行った。

(2) 一斉清掃活動の推進と全国活動への展開

「6月1日は牛乳の日」「6月は牛乳月間」の認知度向上のため、全国の会員に呼びかけ、乳業者・団体とともに、全国各地で地域清掃活動を実施した。39会員、120事業所、約2,600人が参加し、北海道から沖縄まで32都道府県の各事業所周辺で地域清掃活動を、「やっぱりミルクオリジナルビブス」を着用し実施した。

乳業会館では、「千代田区一斉清掃活動の日」に参画し、6月3日と、11月6日に実施した。

(3) S D G s 取り組みの各会員企業への展開

昨年度に続き、今年度も自薦のあった企業や乳製品の製造を主とした企業等、5社の取り組みを取材して事例報告としてHPにて公開した。上期にハヶ岳乳業様、蔵王酪農センター様、アイ・ミルク北陸様、下期に弘乳舎様、サツラク農業協同組合様に取材を行い、合計13社の事例報告を行った。

4) 牛乳・乳製品消費拡大活動の実施

- A. 「牛乳乳飲料と栄養価値訴求パンフレットの配布活動」では、各都道府県協会に協力を呼び掛けた結果、19都道府県協会より協力の申し込みを受け、全国で約30,000人に対して牛乳乳飲料の無償提供に合わせてノベルティ（クリアファイル、ハンドタオル）、理解情勢パンフレットが配布された。
- B. 「牛乳を摂る効果を分かり易く理解できる特設サイト」については、イラストレーターの「うのき」氏作画の「牛乳先生」を中心として、「牛乳先生キッチン」や「牛乳クイズ」等、牛乳非関心層にも興味を持ってもらえるように工夫した。また、期間限定Xアカウント「牛乳先生と仲間たち」を運営し、2025年2月時点で2.4万フォロワーを獲得している。

以上

《 2024年度 会議等開催及び出席実績》

I. 共通・総務部

2024年4月 ～ 2025年3月実績

1. 総会・理事会等

開 催 日	開 催 名
4月19日	第60回理事会（ハイブリッド開催）
5月17日	第13回定時社員総会・第61回理事会
8月 9日	2024年度牛乳等衛生功労者表彰式選考会
10月11日	賛助会員の会
11月18日	第62回理事会（ハイブリッド開催）
11月18日	2024年度牛乳等衛生功労者表彰式・祝賀会
12月 6日	全国事務局長会議（ハイブリッド開催）
1月 7日	乳業団体合同新年賀詞交換会（出席者制限を解き従来通りの規模で開催）
3月13日	第63回理事会（ハイブリッド開催）

2. 会員の総会等への出席

開 催 日	開 催 名
4月17日	九州・沖縄牛乳協会 総会
5月 8日	長野県乳業協会 総会
5月28日	茨城県牛乳協会 総会

3. ブロック会議

開 催 日	開 催 名
6月28日	関東・甲信越ブロック（高崎・ハイブリッド）
7月 1日	近畿ブロック（大阪・ハイブリッド）
7月 2日	中国ブロック（広島・ハイブリッド）
7月 8日	九州・沖縄ブロック（福岡・ハイブリッド）
7月12日	北海道ブロック（札幌・ハイブリッド）
7月19日	四国ブロック（愛媛）
7月23日	東北ブロック（仙台・ハイブリッド）
8月 6日	東海・北陸ブロック（富山・ハイブリッド）
2月13日	関東・甲信越ブロック（東京）
2月20日	東北ブロック（山形）
2月25日	九州・沖縄ブロック（福岡）
2月26日	東海・北陸ブロック（静岡）
3月 3日	近畿ブロック（大阪）
3月 5日	中国ブロック（広島）
3月13日	北海道ブロック（札幌）
3月19日	四国ブロック（徳島）

4. 外部会議

開 催 日	開 催 名
4月18日	食品産業センター 4月度食品関連企業・団体連絡協議会
6月19日	食品産業センター 6月度食品関連企業・団体連絡協議会
8月22日	食品産業センター 8月度食品関連企業・団体連絡協議会
10月17日	食品産業センター 10月度食品関連企業・団体連絡協議会
12月12日	食品産業センター 12月度食品関連企業・団体連絡協議会
1月31日	業界関連4団体総務部門情報交換会

II. 企画・広報部

【広報関係】

1. 広報委員会

開 催 日	開 催 名
9月 4日	第1回ヨーグルト 消費拡大対策検討会
9月20日	学生ミルクセミナー（於 鎌倉女子大学）
9月26日	「ヨーグルト消費拡大対策事業」事業協力者選定会議
10月 9日	牛乳スマイルプロジェクト交流会（大阪）
10月16日	牛乳スマイルプロジェクト交流会（東京）
10月11日	第2回ヨーグルト 消費拡大対策検討会
10月25日	第3回ヨーグルト 消費拡大対策検討会
11月 6日	第4回ヨーグルト 消費拡大対策検討会
11月15日	第5回ヨーグルト 消費拡大対策検討会
11月16日	土日ミルクフェス2024 出展
11月22日	第6回ヨーグルト 消費拡大対策検討会
11月29日	学生ミルクセミナー（於 女子栄養大学）
11月29日	第7回ヨーグルト 消費拡大対策検討会
12月 5日	第8回ヨーグルト 消費拡大対策検討会
12月17日	第9回ヨーグルト 消費拡大対策検討会
12月24日	第10回ヨーグルト 消費拡大対策検討会
1月 8日	第11回ヨーグルト 消費拡大対策検討会
1月 9日	第12回ヨーグルト 消費拡大対策検討会
1月15日	ヨーグルト消費拡大対策発表会
1月29日	第13回ヨーグルト 消費拡大対策検討会

開催日	開催名
2月14日	第14回ヨーグルト消費拡大対策検討会
3月7日	広報委員会

2. 連絡会

開催日	開催名
4月11日	4月度東京連絡会
4月17日	4月度関西連絡会
5月10日	5月度東京連絡会
5月15日	5月度関西連絡会
6月14日	6月度東京連絡会
6月19日	6月度関西連絡会
7月12日	7月度東京連絡会
7月17日	7月度関西連絡会
8月9日	8月度東京連絡会
8月21日	8月度関西連絡会
9月13日	9月度東京連絡会
9月18日	9月度関西連絡会
10月10日	10月度東京連絡会
10月16日	10月度関西連絡会
11月8日	11月度消費者対応等連絡会
12月13日	12月度消費者対応等連絡会（東京）
1月17日	1月度消費者対応等連絡会（大阪）
2月14日	2月度消費者対応等連絡会（大阪）
3月14日	3月度消費者対応等連絡会（大阪）

3. 酪農乳業ペンクラブ関係

開催日	開催名
4月12日	春季見学会（川崎市：雪印メグミルクイノベーションセンター）
5月10日	幹事会
7月4日～7月5日	総会・視察研修（北海道）
7月18日	酪農乳業ペンクラブ 幹事会（新旧幹事合同引継ぎ幹事会）
9月24日	幹事会
11月22日	幹事会
1月29日	冬季研修会・幹事会（農林水産省牛乳乳製品課講演）
3月14日	幹事会

4. 牛乳・乳製品から食と健康を考える会

開催日	開催名
6月10日	第1回「ミルクの未来を考える会」
10月7日	第2回「ミルクの未来を考える会」
2月17日	第3回「ミルクの未来を考える会」

5. 外部会議関連

開催日	開催名
6月1日～2日	第19回食育推進全国大会
8月1日～2日	第1回全国学校給食・栄養教諭等研究協議大会

【企画関係】

1. 乳業基本問題検討委員会

開催日	開催名
5月14日	第1回乳業基本問題検討委員会 （1）第2回畜産部会（5/24）における、乳業者の発言内容等について検討 （2）SDGs関連取組事例調査について （3）その他
7月18日	第2回乳業基本問題検討委員会 （1）「国産乳製品需要拡大事業」を活用した脱脂粉乳の需要拡大について （2）需給等に関する牛乳乳製品課（須永課長）との意見交換会
9月26日	第3回乳業基本問題検討委員会 （1）畜産部会における松田会長発言案について （2）ヨーグルト消費拡大対策の進捗状況について （3）令和6年度補正予算において、ヨーグルト対策の後継事業が措置された場合のあり方について
1月27日	第4回乳業基本問題検討委員会 （1）酪肉近の構成案（第9回畜産部会）に対する意見（松田会長発言案）の検討について （2）2024年度におけるSDGs関連取組事例調査の報告及び2025年度における対応の方向性の検討について （3）ヨーグルト消費拡大プロジェクト発表会（1/15）等の報告及び（令和6年度補正予算を踏まえた）2025年度における需要拡大対策の検討

開催日	開催名
2月28日	第5回乳業基本問題検討委員会 (1) 令和6年度補正予算を踏まえた2025年度需要拡大対策について (2) 酪肉近の本文案暫定版(第11回畜産部会)及び松田会長発言案について (3) 食品等の流通の合理化及び取引の適正化に関する法律及び卸売市場法の一部を改正する法律案について

2. 需給検討関係

開催日	開催名
5月10日	第1回牛乳・乳製品需給検討委員会
9月13日	第2回牛乳・乳製品需給検討委員会
12月12日	第3回牛乳・乳製品需給検討委員会
2月18日	第4回牛乳・乳製品需給検討委員会

3. 輸出協議会関係

開催日	開催名
6月20日	第1回牛乳乳製品輸出協議会
8月5日	第2回牛乳乳製品輸出協議会(総会)

4. Jミルク事業関係

開催日	開催名
4月22日	第1回Jミルク戦略ビジョン推進特別委員会
4月25日	第1回学乳問題特別委員会
5月14日	第2回学乳問題特別委員会
5月16日	第1回Jミルク需給委員会
6月3日	第1回Jミルク国際委員会
6月25日	第2回Jミルク戦略ビジョン推進特別委員会
7月17日	第2回Jミルク需給委員会
8月8日	第1回Jミルク国際委員会経済市場専門分科会
8月29日	第3回Jミルク戦略ビジョン推進特別委員会
9月13日	第1回Jミルクマーケティング専門部会
9月19日	第3回Jミルク需給委員会
9月30日	Jミルク国際委員会分科会長・広報委員会議
11月25日	第2回Jミルク国際委員会及び国際情勢勉強会
11月26日	第1回Jミルク需給情報連絡会
11月30日	Jミルク ジャパンミルクコンGRESS2024
12月17日	第4回Jミルク戦略ビジョン推進特別委員会
12月19日	第4回Jミルク需給委員会
1月15日	Jミルク生産流通専門部会
1月17日	第5回Jミルク需給委員会
1月22日	第2回Jミルクマーケティング専門部会
1月24日	第2回Jミルク国際委員会経済市場専門分科会
1月29日	第5回Jミルク戦略ビジョン推進特別委員会
2月19日	第3回Jミルク国際委員会及び国際情報交換会
2月27日	Jミルク日本の持続可能な酪農研究会
3月11日	Jミルク国際委員会分科会長・広報委員会議
3月11日	第2回Jミルク需給情報連絡会
3月17日	第3回Jミルク需給情報連絡会

Ⅲ. 生産技術部

1. 生産技術委員会

開催日	開催名
5月9日	第1回生産技術委員会 1) 新委員の紹介 2) 2023年度生産技術部活動結果の報告 3) 2024年度生産技術部活動計画について
12月5日	第2回生産技術委員会 1) L.L牛乳等常温保存可能品の大臣承認制度廃止に係る取り組みについて 2) 調製粉乳・調製液状乳の大臣承認申請・栄養素の添加物申請について 3) 各種講習会の進捗状況について 4) 飲用乳の製品再利用の実態について(11/27事業者よりの追加提案事項)

2. 乳製品表示検討委員会

開催日	開催名
5月24日	第1回乳製品表示検討委員会 1) 2023年度講習会報告 2) 2024年度講習会の予定について 3) 乳製品の表示改正要望の有無について
10月2日	第2回乳製品表示検討委員会 1) 表示ガイドラインの改定 2) 表示講習会(2025年1月17日 乳業会館BC会議室)について

3. 調製粉乳技術小委員会

開催日	開催名
5月22日	第1回調製粉乳技術小委員会 1) 食品基準行政の厚労省から消費者庁への移管について （消費者庁食品基準審査課 今西課長補佐より説明） 2) 栄養素添加物申請作業の進捗状況報告
10月28日	第2回調製粉乳技術小委員会 1) 栄養素添加物申請作業の進捗状況 2) 乳等命令に基づく大臣承認の申請手続き（案）について 3) 調製粉乳・調製液状乳の3-MCPDE、GE、鉛等の実態調査結果について

4. HACCP検討小委員会

開催日	開催名
5月15日	第1回HACCP検討小委員会 1) 新委員の紹介 2) 2023年度講習会・小規模事業者支援事業の報告 3) 2024年度活動計画について
1月30日	第2回HACCP検討小委員会 1) 2024年度 牛乳衛生講習会 2) 2024年度 HACCP実務者講習会 3) 2025年度講習会計画について

5. 牛乳衛生講習会

開催日	開催名
7月11日	東京都牛乳衛生講習会
7月24日	埼玉県牛乳衛生講習会
8月 1日	山形県牛乳衛生講習会
8月 5日	近畿地区牛乳衛生講習会
8月 8日	静岡県牛乳衛生講習会
8月22日	群馬県牛乳衛生講習会
8月26日	岐阜県牛乳衛生講習会
9月11日	四国地区牛乳衛生講習会
9月24日	愛知県牛乳衛生講習会
10月 9日	福島県牛乳衛生講習会
10月10日	岩手県牛乳衛生講習会
10月18日	北海道牛乳衛生講習会
10月24日	九州地区牛乳衛生講習会
11月 6日	長野県牛乳衛生講習会
11月 7日	千葉県牛乳衛生講習会
11月11日	石川県牛乳衛生講習会
11月20日	栃木県牛乳衛生講習会

6. HACCP実務者講習会

開催日	開催名
9月2日～3日	HACCP実務者講習会(東京会場)
11月28日～29日	HACCP実務者講習会(大阪会場)

7. 乳製品表示講習会

開催日	開催名
1月17日	乳製品表示講習会(東京会場)

8. 製造管理者講習会

開催日	開催名
12月13日 見送り	製造管理者講習会(東京会場) 応募者5名で見送り
2月7日	製造管理者講習会(博多会場)

9. 外部会議への出席

開催日	開催名
4月11日	東京飲用牛乳協会 第1回品質改善委員会
4月12日	全国飲用牛乳公正取引協議会第1回専門部会
5月14日	輸入食品安全推進協会理事会
4月15日	日本乳容器・機器協会理事会
5月21日	日本乳容器・機器協会とLL牛乳等の製造機器に関する自主基準打合せ
5月20日	食品衛生協会法改正委託事業委員会
6月 5日	東京飲用牛乳協会 第2回品質改善委員会
6月12日	食品安全講習会
6月26日	官能評価支援事業検討委員会
7月29日	乳・乳製品の表示に関する要望事項に関する消費者庁との会議
8月 6日	日本乳容器・機器協会との「LL牛乳等の自主基準」「メンテナンス教育」会議

開催日	開催名
8月21日	育児用調製乳の大臣承認に関する消費者庁食品衛生基準審査課との会議
9月6日	日本乳容器・機器協会との「L L牛乳等の自主基準」「メンテナンス教育」会議
9月10日	全国飲用牛乳公正取引協議会主催の専門小委員会
9月13日	生乳検査精度管理認証特別委員会
10月11日	飲用牛乳公正取引協議会 専門部会
10月29日	公取協乳業5団体※による意見交換会
11月1日	食品産業コーデックス対策委員会
11月5日	日本乳業容器・機器協会理事会
11月6日	東飲協品質改善委員会
11月13日	飲用乳公取協との公正マークの信用を確保するための会議
11月14日	飲用乳公取協専門小委員会
11月19日	L L牛乳等の常温保存可能品の自主基準に関する消費者庁・厚生労働省との会議
12月10日	乳等命令の見直し会議（消費者庁との）
12月18日	L L牛乳等の常温保存可能品に関する自主基準のWeb説明会
12月19日	栄養成分表示に関する改正案会議
12月23日	調製粉乳の添加物申請会議
12月24日	官能評価小委員会
12月25日	生乳検査精度管理委員会
1月14日	乳等命令の試験法見直し会議（Jミルクとの）
1月27日	飲用乳公取協専門小委員会
1月31日	飲用乳公取協専門部会
2月5日	調製粉乳添加物申請会議
2月5日	東京飲用牛乳協会 品質改善委員会
2月17日	乳児用調製乳中のPAHの含有実態調査に関する会議（農水省との）
2月19日	調製粉乳等の大臣承認の見直しについての通知発出後の運用会議（消費者庁との）
2月27日	食品産業コーデックス対策委員会
3月10日	全国飲用牛乳公正取引協議会 専門小委員会
3月17日	I S O / T C 3 4 / S C 5 国内審議委員会（事務局Jミルク）
3月24日	官能評価事業小委員会
3月28日	D S M（ビタミンK1#7ライヤー）との会議

10. 各種審議会・懇談会等の出席・傍聴

開催日	開催名
11月12日	食品容器・容器包装に関わるポジティブリスト制度説明会
2月10日	食品衛生基準審議会 食品規格・乳肉水産・伝達性海綿状脳症対策部会

【環境部】

1. 環境委員会他

開催日	開催名
4月2日	環境委員会
4月5日	プラ推進協 正副会長会議
4月9日	プラ推進協 広報・啓発専門部会
4月12日	L L 研臨時運営委員会
4月15日	紙推進協／複合紙容器包装リサイクル推進WG設置検討会
4月19日	プラ推進協 企画運営委員会
5月10日	プラ推進協 理事会
5月15日	紙推進協 理事会
5月17日	L L 研 運営委員会
5月23日	食産センター サステナビリティ委員会
5月29日	容器包装リサイクル協会/紙容器事業委員会
6月1～2日	食育推進全国大会（大阪府）
6月3日	紙推進協 定時総会
6月4日	環境委員会
6月7日	プラ推進協 定時総会
6月11日	プラ推進協 広報・啓発専門部会
6月14日	プラ推進協 正副会長会議
6月21日	プラ推進協 企画運営委員会
7月3日	プラ推進協 法令勉強会
7月17日	C L O M A 総会
7月18日	食産センター サステナビリティ委員会
7月19日	L L 研 臨時運営委員会
7月23日	関西連絡会見学会/西日本衛材㈱
7月26日	プラ推進協/プラ資源循環・3R情報報告会
7月26日	紙推進協/第1回複合紙製容器包装リサイクル推進WG
7月30日	全清飲/サマーパーティ
8月5日	L L 研 臨時運営委員会

開催日	開催名
8月 6日	カーボンニュートラル行動計画WG
8月 6日	環境委員会
8月 9日	プラ推進協 正副会長会議
8月19～20日	ハケ岳乳業（環境マネジメント監査）
8月20日	プラ推進協 広報・啓発専門部会
8月23日	プラ推進協 企画運営委員会
8月28日	Jミルク/乳業技術専門分科会（JIDF）
9月18日	国連プラスチック条約策定に向けた議論の状況等に係るオンライン説明会（農水省）
9月19日	食産センター サステナビリティ委員会&視察会
9月25日	プラ資源循環・3R情報報告会
9月27日	環境セミナー
10月 1日	環境委員会
10月 4日	プラ推進協 正副会長会議
10月 8日	プラ推進協 広報・啓発専門部会
10月17日	LL研 運営委員会
10月18日	プラ推進協 企画運営委員会
10月29日	バイオマスプラスチックセミナー
10月30日	廃棄物・3R研究財団及び3R・資源循環推進フォーラム年次報告会
11月 1日	紙パッキリデュースワーキンググループ
11月11日	令和6年度食品産業分野の容器包装等に係る検討会（第2回）
11月14～15日	プラスチックマテリアルリサイクルプラント見学会（長野）
11月21日	プラ条約説明会
11月21日	食産センターサステナビリティ委員会（欠席）
11月22日	プラ推進協/プラスチック資源循環研修会（岐阜）
11月25日	プラ推進協/第75回理事会
11月26日	環境委員会
11月27日	プラ推進協 3R情報報告会
11月29日	カーボンニュートラル行動計画WG
12月 4日	エコプロ2024 LL研ブース説明立会
12月10日	プラ推進協 広報・啓発専門部会
12月13日	プラ推進協 正副会長会議
12月20日	プラ推進協 企画運営委員会
1月10日	プラ推進協 賀詞交歓会
1月14日	全清飲 賀詞交歓会
1月14日	GHG プロトコル改訂のためのタスクフォース・事前勉強会
1月17日	食産センター「環境省2025年度資源循環の 社会実装支援」に関する意見交換会
1月20日	GHG プロトコル改訂のためのタスクフォース・事前勉強会
1月22日	紙推進協/ 複合紙WG行政訪問（岐阜市）
1月14日	GHG プロトコル改訂のためのタスクフォース
1月14日	プラスチック資源循環・3R情報報告会 第5回報告会
1月23日	食産センター サステナビリティ委員会
1月22日	紙推進協/ 複合紙WG行政訪問（古河市）
1月22日	プラスチック資源循環・3R情報報告会 第5回報告会（Web）
1月23日	サーキュラーエコノミーサロン
1月23日	食産センターサステナビリティ委員会（欠席）
1月24日	CEセミナー
2月 4日	環境委員会
2月 7日	プラ推進協 正副会長会議
2月10日	紙推進協/ 複合紙WG行政訪問（町田市）
2月18日	プラ推進協 広報・啓発専門部会
2月20日	プラ推進協 プラスチック資源循環研究会（前橋）
2月21日	プラ推進協 企画運営委員会
2月25日	紙推進協/ 複合紙WG行政訪問（焼津市）
3月 4日	容器包装リサイクル協会/紙容器事業委員会
3月 5日	プラ推進協 打合せ
3月 7日	食産センターサステナビリティ委員会（意見交換会）
3月24日	LL研 意見交換会
3月27日	紙推進協/ 複合紙WG行政訪問（前橋市）
3月28日	LL研 運営委員会

2. 商習慣の見直し、フードロス対策

開催日	開催名
4月 5日	環境委員会参加社営業販売部門意見交換
4月10日	SM物流研究会
4月15日	Jミルク訪問（流通業界団体への酪農乳業界プレゼン打合せ）

開催日	開催名
4月22日	公正取引委員会ヒアリング対応
4月23日	食品廃棄物等の発生抑制に向けた取り組みの情報連絡会
4月23日	中央酪農会議訪問（流通業界団体への酪農乳業界プレゼン打合せ）
4月25日	リサイクル施設（ブライトピック溝原工場）視察
4月26日	オール日本スーパーマーケット協会との打ち合わせ
5月14日	環境委員会参加社営業販売部門意見交換会
5月24日	チルド加工食品メーカー物流研究会
5月27日	日本フランチャイズチェーン協会訪問
6月19日	チーズ普及協議会、日本マーガリン工業会との情報・意見交換
6月19日	全国食品リサイクル連合会/研修会
6月21日	全国発酵乳酸菌飲料協会との情報・意見交換
6月26日	チルド食品物流研究会（欠席）
6月28日	商習慣改善商談開始に関する酪農乳業ペンクラブプレスリリース
7月9日	加工食品分野の物流の適正化・生産性向上に向けた取組の情報連絡会
7月19日	乳協会長へ食品ロス削減活動進捗報告
7月24日	チルド物流研究会
7月29日	乳協会長自見大臣会見同行
7月31日	食品ロス削減のための商慣習検討WT 日配品検討会
8月22日	環境委員会参加社営業販売部門意見交換会
9月1日	東北物流研究会
9月25日	チルド物流研究会
10月22日	関環協主催現地研修会（植物工場研究会、石井食品(株)八千代工場）
10月23日	チルド物流研究会
11月5日	環境委員会参加社営業販売部門意見交換
11月7日	全国農協乳業協会情報交換会（大阪）
11月22日	食品ロス削減に向けた食品企業の取り組みセミナー
11月26日	食品廃棄物等の発生抑制に向けた情報連絡会（第3回）
12月11日	商習慣アンケート集計に関する打合せ：YBS
12月13日	商習慣見直し成功事例打合せ（農林水産省）
1月23日	第2回食品ロス削減商慣習WT 日配品検討会
1月23日	チルド物流研究会（欠席）
2月18日	YBS社と商習慣アンケート結果打合せ
2月19日	環境委員会 ブライトピック社見学会
2月27日	AJS商品・用度展示会（京都）
3月5日	農水省牛乳乳製品課 訪問
3月6日	環境委員会参加社営業販売部門意見交換会
3月10日	日本スーパーマーケット協会 訪問
3月10日	全国スーパーマーケット協会 訪問
3月11日	食品ロス削減に向けた商慣習見直しWT 日配品検討会
3月12日	日本チェーンストア協会 訪問
3月12日	消費者庁 訪問
3月19日	チルド物流研究会
3月19日	日本チェーンストア協会 訪問
3月26日	酪農ペンクラブプレスリリース（アンケート調査結果公表の件）

3. 全国牛乳容器環境協議会関係

開催日	開催名
4月4日	広報・イベント委員会
4月10日	北米視察報告会
4月10日	総務・支部・月次運営委員会
4月11日	監事監査
4月16日	行政訪問（千葉県）
4月18日	容環協第101回理事会、第33回定時総会
4月22日	行政訪問（東京都）
4月23日	行政訪問（神奈川県）
4月24日	ダイナックス 2024取組み打合せ
4月26日	行政訪問（大阪府、大阪市）
5月8日	総務・支部組織委員会
5月9日	広報・イベント委員会
5月10日	アルミ付き紙容器マテリアルフロー説明（印刷工業会）
5月10日	八王子環境フェスティバル出展（啓発）
5月14日	四半期運営委員会
5月23～24日	全国都市清掃会議意見交換会（高知）
5月25日	川越市北公民館（啓発イベント）
5月27日	経済産業省資源循環経済課との面談

開催日	開催名
5月30日	尼崎バックルネット訪問
6月 6日	広報・イベント委員会
6月 9日	八王子環境フェスティバル出展（啓発）
6月10日	集めて使うリサイクル協会通常総会（大阪）
6月12日	総務・支部・月次運営委員会
6月20日	紙すき講習会（乳業会館）
6月25日	マスコ製紙
7月 4日	みずずコーポレーション（破砕処理機メーカー）との情報・意見交換
7月 5日	公益社団法人 食品容器環境美化協会との情報・意見交換
7月10日	広報・イベント委員会
7月12日	紙推進協 組成分析調査（旭川）
7月 9日	出前授業：市川市立国府台小学校
7月16日	日本製紙と日本テトラパック協業についての再生紙メーカー説明会
7月17日	総務・支部・月次運営委員会
8月 1日	広報・イベント委員会
8月 7日	総務・支部組織委員会
8月21日	四半期運営委員会
8月23日	容環協/全原連 富所専務訪問
8月24日	容環協/むさしのエコreゾート 夏休みワークショップ（啓発）
8月27～28日	SRA-J/（名古屋・半田、神戸）
9月 4日	エコプロ出展者説明会
9月 5日	広報・イベント委員会
9月 6日	農林水産省 牛乳乳製品課・阿南専門官訪問
9月11日	日本ガラスびん協会（情報交換）
9月11日	総務・支部・月次運営委員会
9月17日	出前授業：門真市立上野口小学校
9月19日	広報・イベント委員会
10月 3日	広報委員会
10月 7日	榊大久保、全原連、全国パック連打合せ（日暮里）
10月 9日	総務・支部・月次運営委員会
10月10日	イベント委員会
10月11日	流山市教育委員会訪問
10月15日	牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール一次審査
10月16日	古紙再生促進センター50周年シンポジウム・記念祝賀会
10月17日	広報委員会
10月19日	野田市リサイクルフェア（啓発）
10月21日	年次報告書取材：座間市・大久保・イオンモール
10月29日	出前授業：川崎市立古市場小学校
10月30日	全国パック連他打合せ
10月31日	紙容器リサイクル、循環経済への移行を主旨とする官民 パートナーシップフォーラム（テトラ社主催）
11月 3日	第12回アトムフェスタ（新宿区）（啓発）
11月 5日	全国都市清掃会議訪問
11月 5日	日本再生資源事業協同組合連合会訪問
11月 6日	容環協/基本調査中間報告会
11月 6日	総務・支部・月次運営委員会
11月 7日	広報委員会
11月 8日	神奈川県学校給食会勉強会
11月 8日	イトマン株式会社取材（大阪）
11月11日	イベント委員会
11月12日	牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール最終審査
11月13日	学乳パックリサイクル打合せ（日本製紙）
11月13日	四半期運営委員会
11月14日	牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール写真撮影（欠席）
11月18日	SRAジャパン表彰式
11月21日	広報委員会
11月27日	イベント委員会
12月11日	古紙問屋・再生紙メーカーとの意見交換会（富士市）
12月12日	出前授業：川崎市立宮崎小学校
12月13日	碧いびわ湖打ち合わせ
12月17日	イベント委員会
12月19日	容環協第102回理事会
12月21日	牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール表彰式（丸の内）
12月26日	広報委員会
1月 8日	古紙再生促進センター賀詞交換会（経団連会館）
1月 8日	イベント委員会
1月 9日	広報委員会

開催日	開催名
1月15日	総務・支部・月次運営委員会
1月16日	広報委員会
1月20日	出前授業：川崎市立大谷戸小学校
1月31日	古紙再生促進センター「全国小中学生“紙リサイクルコンテスト”2024」審査
2月5日	総務・支部組織委員会
2月6日	広報・イベント委員会
2月12日	四半期運営委員会
2月14日	地域会議in関西（大阪市）
2月15日	店舗視察（関西地区）
2月18日	飲料用紙パックリサイクル促進意見交換会（Web）
3月2日	新宿リサイクル活動センターこどもまつり（新宿区）
3月6日	広報・イベント委員会
3月7日	次年度事業計画ご相談（柳田会長）
3月7日	容環協/基本調査報告会
3月7日	総務・支部・月次運営委員会
3月11日	東京国立博物館 藤原館長訪問（遊ぶ学ぶ）
3月13日	容環協第103回理事会
3月14日	紙推進協 組成分析調査（名古屋）
3月15日	柏原市 チアファミリーフェスタ（啓発）
3月23日	こどもエコクラブ全国フェスティバル（大阪）

4. 飲料用紙容器リサイクル協議会関係

開催日	開催名
4月3日	3R推進団体連絡会（ガラスびん）
5月8日	3R推進団体連絡会（アルミ缶）
5月20日	監事監査
5月29日	第34回理事会、第28回通常総会
6月4日	3R推進団体連絡会（飲紙）
6月13日	3R推進団体連絡会（自治体情報交換）
7月2日	3R推進団体連絡会（自治体情報交換）
7月4日	3R推進団体連絡会（段ボール）
8月7日	3R推進団体連絡会（ガラスびん）
9月4日	3R推進団体連絡会（アルミ缶）
9月24日	紙パック識別マークガイドライン検討会
10月2日	3R推進団体連絡会（飲紙）
10月23日	全都清 秋季評議委員会意見交換会（福井）
10月24日	3R活動推進フォーラム全国大会（大宮）
11月7日	3R推進団体連絡会（段ボール）
11月18日	3R推進団体連絡会フォローアップ報告（経団連）
11月21日	第29回容器包装交流セミナー（岐阜）
11月26日	3R推進団体連絡会（プラスチック）
11月28日	3R推進団体連絡会フォローアップ報告（経産省、農水省）
12月2日	3R推進団体連絡会（ガラスびん）
12月9日	3R市民リーダー育成講座
12月10日	3R推進団体連絡会フォローアップ報告（環境省）
12月16日	3R推進団体連絡会フォローアップ経団連容リ懇談会
12月17日	3R推進団体連絡会フォローアップ記者説明会
12月18日	紙パック識別マークガイドライン検討会
1月15日	3R推進団体連絡会（アルミ缶）
1月28日	第19回容器包装3R推進フォーラム（湯島）
2月5日	3R推進団体連絡会（飲紙）
2月19日	3R推進団体連絡会容器包装交流セミナー意見交換会（前橋）
2月25日	紙パック識別マークガイドライン検討会
3月3日	3R推進団体連絡会（段ボール）

事業報告に係る附属明細書

事業報告の内容を補足する重要な事項はありません。